

4 林業の成長産業化に向けた支援の充実について

【農林水産省、林野庁】

《提案・要望事項》

林業・木材産業を発展させ、雇用の確保と所得の向上をもたらす産業へと転換する「成長産業化」を実現するため、次の事項に取り組むこと。

- 1 ICTを活用したスマート精密林業技術の普及による適正な森林管理の推進や収益性の向上を図るため、最新技術の開発・実証や設備機器の導入に加え、技術者育成の取組に対する支援制度を拡充すること。
- 2 収益性の高い林業の実現に向け、林業労働生産性の向上及び林業就業者の確保並びに安全性の向上を図るため、高性能林業機械の導入、林内路網の整備に対する予算の拡充を図ること。

《スマート精密林業技術の取組》

信州大学を核にした全国トップレベルの知見と開発技術を活かし、経営の効率化と生産性の向上及び情報連携の確保を図るとともに、需給マッチングと流通を円滑化するシステムを開発し、林業県としての体制整備を推進するため、「スマート林業タスクフォース NAGANO」を設立した。

今後、協議会を中心とした取組を通じて、スマート精密林業「長野モデル」として全国に発信を行うとともに、県内各地への普及を図り、収益性と創造性の高い林業の実現を目指す。

【スマート林業タスクフォース NAGANO】

信州大学、中部森林管理局、北信州森林組合、アジア航測(株)、(株)小松製作所、長野県



航空機レーザー測量



ドローンレーザー測量



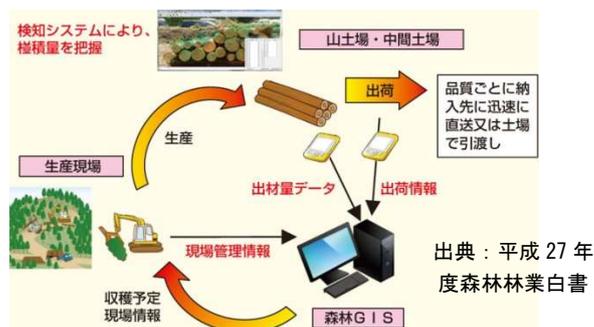
タブレット端末による森林GIS情報の現場確認



最先端の林業機械

＜参考：スマート精密林業「長野モデル」＞

国の公募事業を活用し、平成30年度は、信州大学が開発した「森林資源の詳細な情報把握」技術をモデル的に実施し県内での技術普及を図るとともに、平成31年度以降は、需給開発システムの開発と普及により木材の有利販売や効率的な輸送を目指す。



【長野県内の現況と課題】

1 労働生産性の状況

平成 27 年の林業労働生産性は、主伐が 5.07m³/人・日、間伐が 3.55m³/人・日で、ともに全国平均より低い現状である。

区分	間 伐			皆 伐			
	年度	H25	H26	H27	H25	H26	H27
長野県 (m ³ /人・日) 【A】		4.05	3.61	3.55	5.15	4.96	5.07
全国 (m ³ /人・日) 【B】		4.17	4.17	4.00	5.88	6.25	6.67
比較 (A-B)		△0.12	△0.56	△0.45	△0.73	△1.29	△1.60

※林野庁の素材生産費等調査結果による

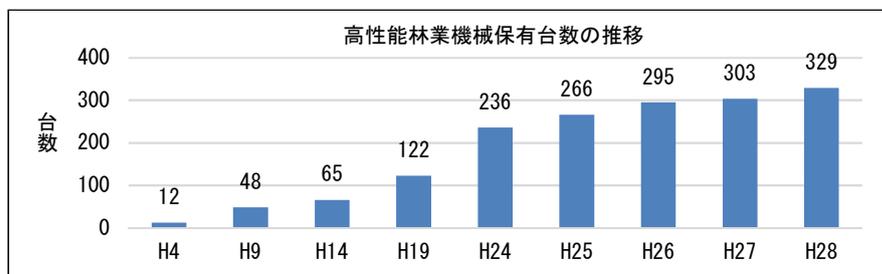
2 高性能林業機械の導入状況

平成 28 年度末の高性能林業機械の保有台数は 329 台で、近年着実に増えてはいるものの林業事業者からは新たな機械導入や更新の希望が多い。

○平成 30 年度の予算措置状況

単位：千円

区分	県要望額	配当額	充足率
高性能林業機械導入支援	141,453	62,519	44.2%



プロセッサ



フォワーダ

3 林内路網の整備状況

平成 28 年度末の民有林における林内路網延長は、全国 7 位の 13,794km であるが、路網密度は 20.1m/ha と全国平均の 24.3m/ha よりも低い状況にある。

○平成 30 年度の予算措置状況

単位：千円

区分	県要望額	配当額	充足率
公共林道	956,268	694,184	72.6%



林業専用道

<参考：H30 年度林野庁関連予算>

川上・川下連携による成長産業化支援対策(25 億円の一部)…スマート林業の構築

林業・木材産業成長産業化促進対策の持続的林業確立対策(123 億円の一部)…高性能林業機械の導入支援

森林環境保全整備事業(28 億円)、農山漁村地域整備交付金(917 億円の一部)など…林道、林業専用道整備等の支援

4 課題

- (1) 林業の成長産業化に向けた取組を加速させるためには、スマート精密林業「長野モデル」の普及を図るとともに、最新技術を取り扱う人材の育成が必要であるが、人材育成が支援対象とされていない。
- (2) 収益性の高い林業を実現するためには、意欲と能力のある者に森林の管理・経営を集約し、林業労働生産性の向上に直結する高性能林業機械の導入や路網整備の更なる推進を図る必要があるが、そのためには関連事業の予算の確保が必要である。

(県所管部局) 林務部